

## 滝沢ダム建設事業がダム工学会技術賞を受賞

埼玉県秩父市大滝の荒川水系中津川にて実施されている滝沢ダム建設事業が、この度、平成21年度ダム工学会技術賞を受賞しました。ダム工学会技術賞は、「ダムの計画、設計、施工、または維持管理等に関して、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた画期的な事業を実施した個人または団体に対して授与する。」（ダム工学会賞表彰規定）とされています。これまで水資源機構では、平成14年度に富郷ダム建設事業が、平成19年度に徳山ダム建設事業が同賞を受賞しています。



滝沢ダム建設事業では工期短縮やコスト縮減、自然環境の保全が強く求められ、立坑を利用した原石採取と低品質骨材の積極的利用、コンクリート製造・運搬の自動化、新たなコンクリート等運搬工法S P-TOMの開発、プレキャスト部材の採用や大型テント使用等による工期短縮、郷土種・表土等による緑化等の自然環境保全及びダムと一体となった景観で奥秩父の財産となっているループ橋等への取り組みを実施しましたが、これらが評価されたものです。

表彰式は、去る平成22年5月13日に開催され、これまで滝沢ダム建設事業に携わられた方々を代表して水資源機構荒川ダム総合管理所長が、共同受賞者である鹿島・熊谷・銭高特定建設工事共同企業体（本体JV）及び西松・青木・奥村特定建設工事共同企業体（原石JV）の各社と共に表彰を受けました。

滝沢ダムは、平成20年4月から供用を開始していますが、一方で残る斜面对策工事を今年度までの予定で実施しています。今回の受賞を機に、改めてダム事業へご理解・ご協力していただいた方々へ感謝申し上げますと共に、ダムの役割をきちんと果たしながら地域に親しまれるダムとなるよう努めていきたいと考えております。今後とも滝沢ダムをよろしく願いいたします。

